

あなたと多良間村議会をつなぐ



村議会だより

CONTENTS

3月定例会

- P.2 新年度当初予算の概要
- P.3 新年度の主要事業
- P.4-5 2018年度一般会計補正

- P.5 特別会計補正、4月24日臨時会
- P.6-11 一般質問(3月11日に6名が登壇)
- P.12 管内視察報告、編集後記

村公式HPでも
読めます



前年度比5億5,706万円(0.3%)増

26億4,498万円を可決

新年度予算などを審議する3月定例会。初日には村長から「村民の皆様が「何を望み」「何を優先すべきか」敏感に感じ取りながら、限られた人材、限られた財源の中で創意工夫を行い、歳出全般の効率化を図るとともに、予算執行においては、適正かつ迅速に行ってまいります」と施政方針がありました。

一般会計の概要

地方交付税と県支出金の減
寄附金の増

地方交付税4,000万の

減額の要因は、基礎財政需要額算定の、地域経済雇用対策費が2018年度の改正で廃止によるものです。県支出金の減額は、沖縄振興一括交付金が前年度より減少した事によるものです。どちらも全国的に減少傾向にあり、自主財源が15%程度の多良間村には大きな打撃になりました。そんな中、前年度より開始した、ふるさと納税寄付金等が約

5,000万円の増額となっています。

国庫支出金と村債の増額は
大型事業によるもの

新年度一般会計当初予算は26億4,498万円、前年度と比較して5億5,706万円増加となっています。増加の要因は、観光関連施設整備事業(食事・土産品施設)や集落基盤・再編整備事業などの大型公共事業によるものです。

2019年度一般会計当初予算

(単位：千円、△はマイナス)

区分	2019年度	2018年度	対前年度増減額	増減率(%)	構成比(%)
村 税	89,772	89,895	△123	△0.0	3.4
地方譲与税	33,699	33,699	0	0.0	1.3
利子割交付金	74	74	0	0.0	0.0
配当割交付金	105	105	0	0.0	0.0
株式等譲渡所得割交付金	77	77	0	0.0	0.0
地方消費税交付金	16,546	16,546	0	0.0	0.6
自動車所得税交付金	9,007	9,007	0	0.0	0.3
地方特例交付金	51	51	0	0.0	0.0
歳入	950,000	990,000	△40,000	△0.0	35.9
分担金及び負担金	20,057	20,408	△351	△0.0	0.8
使用料及び手数料	57,439	53,431	4,008	0.1	2.2
国庫支出金	579,516	225,587	353,929	1.6	21.9
県支出金	382,091	414,055	△31,964	△0.1	14.4
財産収入	889	929	△40	△0.0	0.0
寄附金	50,002	4	49,998	12,499.5	1.9
繰入金	159,333	48,728	110,605	2.3	6.0
繰越金	1	1	0	0.0	0.0
諸収入	22,869	22,318	551	0.0	0.9
村債	273,452	163,000	110,452	0.7	10.3
合 計	2,644,980	2,087,915	557,065	0.3	100.0

歳出	議会費	44,078	44,243	△165	△0.0	1.7
	総務費	674,934	698,721	△23,787	△0.0	25.5
	民生費	205,513	202,323	3,190	0.0	7.8
	衛生費	121,894	121,176	718	0.0	4.6
	農林水産業費	789,879	347,923	441,956	1.3	29.9
	商工費	62,833	58,470	4,363	0.1	2.4
	土木費	267,183	224,407	42,776	0.2	10.1
	消防費	14,514	18,109	△3,595	△0.2	0.5
	教育費	195,497	185,550	9,947	0.1	7.4
	公債費	264,655	182,993	81,662	0.4	10.0
	予備費	4,000	4,000	0	0.0	0.2
	合 計	2,644,980	2,087,915	557,065	0.3	100.0

公債費の増
新製糖工場整備に伴い増額
となっています。

特別会計の概要

国民健康保険の増額は、新システム導入による保守料。介護保険の減額は、福祉協議会への地域支援事業委託分の減額、後期高齢者医療保険の減額は、負担金の減額によるものです。

2019年度当初予算総括表

(単位：千円、△はマイナス)

会計名	2019年度	2018年度	対前年度増減額	増減率(%)
一般会計	2,644,980	2,087,915	557,065	0.27
特別会計	371,160	378,704	△7,544	△0.02
国民健康保険事業	168,209	167,886	323	0.00
簡易水道事業	59,007	59,007	0	0.00
介護保険	134,012	141,771	△7,759	△0.05
後期高齢者	9,932	10,040	△108	△0.01

新年度も大型事業が
沢山あるんだね



未来につながる予算を可決

新年度の主要事業

多良間中学校グラウンド全天候型改修事業 **1億1,700万円**

【概要】雨天後のグラウンド環境の悪化による大会の中止等をなくすため、中学校グラウンドを全天候型に改修し、児童生徒や村民の体育環境を改善する。

【工期】2017年度から2020年度（4年間）

【予算の内容】新年度では、タータンを除いたグラウンドの工事（トラックや幅跳び、フィールド）を行う。

私はこう考える！修正動議

豊見山正議員

当初事業費1億3,000万円を大幅に上回る、総事業費2億8,000万円の莫大な費用をかけて中学校グラウンドのトラック部分を8レーンとしてタータン舗装を行うものである。

しかし、本村の厳しい財政事情考えると、8レーンの計画を6レーンに変更して当局試算の5,400万円の事業費縮減をすべきであると考え。また、日本陸上競技連盟の公認競技場の要件は、1周距離が200mの競技場は6レーンでもよいとしており、中学校グラウンドが本村の総合運動場の性格を持つ施設で

あるとしても、8レーンとすべき合理的な理由はない。6レーンの公認競技場として整備すれば、企業団などの競技者の使用にも何ら支障はない。

よって、本年度の工事費1億1,748万円のうち、7、8レーン分の工事費722万を減額すべきである。

私は賛成

富原安則議員

他の事業で1億200万の繰越しが認められず厳しい予算難なので、6コースへ削減すべきだ。

私は反対

本村健次議員

8コースにする事によって

グラウンドの整備作業の軽減により、生徒達に十分な教育指導ができる。

福領常夫議員

子供達や一般住民、島外からの活用、そして多良間一周マラソン事業も雨天に関係なく利用できる。

起立採決

起立（賛成）同数（豊見山正議員、富原安則議員、渡口直和議員） ↓議長裁決で可決

修正
可決案

集落基盤・再編整備事業（多良間第二地区） **3億6,400万円**

【概要】未利用の牛の糞尿を農家の協力により提供して頂き、新たに堆肥舎整備と関連機械を整備し農家の所得と生産量の向上を図る。

【予算の内容】 圃場整備、防犯灯整備、堆肥化施設整備を行う。

沖縄離島活性化推進事業 （多良間農業高収益作物導入実証事業） **3,930万円**

【概要】 国営の畑地かんがい排水事業（水やり農業）を行う為の圃場実証事業。

【予算の内容】 水あり農業で安定して高収益作物ができる事を実証できるように、平張りハウスやトンネルハウス等に取り組む

優良繁殖雌牛導入支援事業 **2,400万円**

【概要】 生産農家の経営の安定化および良質な肉用牛の改良推進を図る為、優良繁殖雌牛導入を支援する。

【予算の内容】 優良繁殖雌牛の導入30頭

観光関連施設整備事業（食事・土産品施設） **1億200万円**

【概要】 本村の地域資源を活かし観光産業の振興を図るため、観光客への食事・土産品の提供の場を整備し、快適な環境づくりによる観光地を形成する。

【予算の内容】 建設工事における残事業として、施設工事、外構工事、太陽光発電工事を行う。

その他

多良間人交流促進事業 **470万円**

【概要】 八月踊りをモチーフに新たな創造文化として「多良間エイサー（たらまふしやぬふ）」を創作する。志としては、将来的に八月踊りの組織のように「太鼓舞座」という新しい「座」の構築も目指すような意欲で創作に取り組む。

【予算の内容】 3曲作曲し、行事などにエイサーを行う。

公営住宅等整備事業（南原団地建替） **1億3,300万円**

【概要】 南原団地は、築30余年を経過し老朽化が著しい等、良好な居住環境を供給できない状況にあるため、建て替え事業を実施し4棟16戸を整備する。

【予算の内容】 1棟4戸の建設工事・既存の1号棟の解体工事に着手する。

県営土地改良事業（カッジョウ・種子川） **2,600万円**

【概要】 農地の集団化を行い、農産物の生産性を高め、農業所得の向上と機械化農業による農業経営の安定を図る。

【予算の内容】 区画整理

農業基盤整備促進事業（迎原・高瀬第一） **1億7,100万円**

【概要】 農産生産基盤の整備及び開発を図り、農業の生産性の向上、農業総生産の増大、農業生産の選択拡大及び農業構造の改善を図る。

【予算の内容】 区画整理

2018年度一般会計予算の補正を可決

23億5,301万円(3,367万円減額)



離島活性化事業の減額理由は
⇒ 耐震調査が必要になった
福嶺常夫 議員

質問 離島活性化事業費(空き家)の予算を400万円計上していたが、減額になっている理由は。

答弁 委員会を立ち上げて村内の空き家の件数を把握し、今回1件の建物を進めていたが、昭和56年以前の建物は耐震調査が必要と分かった。そこで、内閣府と相談し、2019年度で事業実施する事になった。



村政要覧の作成実施は
⇒ 2019年度で実施する
福嶺常夫 議員

質問 9月の補正で村政要覧の作成費350万円を認めただが、出来なかったのは何故か。

答弁 発行にあたり、資料等の準備が2018年度では厳しくなった。2019年度に発行できるように、他の団体の村政要覧を参考にしながら進めていく。



繰越明許の理由を
豊見山 正 議員

答弁 土木建設課長

- 農業基盤整備促進事業(高瀬第一地区・測量設計委託業務) 2,343万円の繰越し理由は、現地にまだ刈取りをしていない圃場が残って中に入れられない状態なので、県との調整で繰越しになった。
- 集落基盤再編整備事業(多良間第二地区備品購入) 2,018万円で、シャボを二台(大型開閉式と小型)を注文したが、部品の製造ラインが海外にしかなく納期が遅れているため。
- 村道中央線改修工事測量設計委託業務(測量設計) 529万円の繰越し理由は、測量設計業務の遅れによるもの。

答弁 観光振興課長

- 夢パティオたらま(和室)空調機設置工事123万円の繰越しは、急遽同様の工事が入ったため、次年度行う事になった。



修正動議 私はこう考える

債務負担行為補正の年度変更は必要ないもの
豊見山 正 議員

提案理由 この債務負担行為は、新製糖工場の工事完成のために、止む無く認めた工事費。現在すべての工事が完了し、工事費も既に支払済みであります。工事完了の担保であったこの費用は、意味のないものとなりました。よって、提案されている債務負担行為の年度変更は必要ないものと考えます。

私は反対 福嶺常夫 議員

新製糖工場の追加費用問題による調定を現在行っている。村が納得のいくまで取り組むために、年度延長が必要だと考える。

債務負担行為補正

- 事項 含みつ製糖工場施設近代化事業(多良間新製糖工場建設事業費)
- 期間 補正前/2018年度
補正後/2018年度~2019年度

起立採決

起立(賛成)多数

豊見山正議員、富原安則議員、渡口直和議員、本村健次議員

よって、修正案は**可決**されました。

2018年度特別会計予算の補正を可決

国民健康保険事業特別会計

2億1,578万円
(1,819万円を減額)



簡易水道事業特別会計

7,481万円
(660万円を増額)



介護保険事業特別会計

1億5,026万円
(1,140万円を減額)



後期高齢者医療特別会計

1,146万円
(23万円を減額)



最新情報!

第2回臨時会
2019年4月24日

新製糖工場追加費用問題、調停合意 否決

調停条項案

那覇簡易裁判所調停委員会

調停条項(案)は、申立人と相手方双方にとって、経済的合理性、妥当性及び事件の性質上、早期解決が好ましいとの観点から、調停委員会としての最終案を提示するものとする。

調停条項(案)

1、申立人と相手方は、申立人と相手方間の「多良間村製糖施設(含みつ糖製造)機械危惧施設工事」に関する平成27年9月17日付け工事請負契約(その後の変更契約を含む。)についての追加工事代金が、総額税込1億4500万円(総額税込1億5000万円から相手方の申立人に対する既払金500万円を控除した額)であることを相互に確認する。

2、相手方は、申立人に対し、前項の追加工事代金1億4500万円を、2019年5月31日に限り、申立人の指定する銀行口座宛に振込送金の方法で支払う。なお、振込手数料は相手方の負担とする。

3、相手方が前項の金員の支払を怠ったときは、相手方は、申立人に対し、第1項の金員から既払金を控除した残額及び2019年6月1日から支払済みまえ年6パーセントの割合による遅延損害金を直ちに支払う。

4、申立人及び相手方は、本調停条項が多良間村議会の承認を条件とするものであり、多良間村議会の承認が得られない場合は、すべて効力を失うことを相互に確認する。

5、相手方は、本調停成立後、速やかに前項の承認に関する議案を多良間村議会に提出して、遅くとも本調停成立後1ヶ月以内に多良間村議会の審議・議決に付するものとする。

6、申立人及び相手方は、申立人と相手方との間には、本件に関し、本調停条項に定めるもののほかに何らの債権債務がないことを相互に確認する。

7、調停費用は各自の負担とする。

以上

反対 豊見山正議員、渡口直和議員、
富原安則議員、本村健次議員

賛成 安里三喜男議員、福嶺常夫議員

責任の所在を明らかにし村民に納得いくよう承認を求めるべきだ。(豊見山議員)
責任の所在を明確にしない村長の答弁に懸念がある。(富原議員)

建設ラッシュによる人手不足など諸条件が伴わなかった。調停を5回も行っている。6%の延滞金は大きな損害。早期解決のために賛成である。(福嶺議員)

起立採決 → 起立(賛成)少数により、否決されました。

固定資産評価審査委員会委員の選任について

- 住所：多良間村
- 氏名：嘉味田 玄常
- 年齢：69歳

同意

教育委員会委員の任命について

- 住所：多良間村
- 氏名：知念 信雄
- 年齢：68歳

可決



富原 安則 議員

問

新製糖工場

月島機械との調停は

答

**2億1,500万円
譲らず平行線**

■月島機械との調停和解は

多良間村新製糖工場新設において、月島機械株式会社から3億716万2,800円の追加費用と称し(損害賠償)、請求が生じている。その件について、多良間村民が非常に懸念を抱いている。村民の税金で全額負担するのか等々な懸念をすくく抱いている現在であり、今や村民の間では話題になっている。私も幾人かの方から質問を受けている。

村長

月島機械から、那覇簡易裁判所の

調停申し立てがあり、第1回の調停

については、その経緯の説明と内容確認、双方の主張がありました。本村としては、月島機械から、当初からの見積もり額3億670万3,000円の支払いを求めていることに対し、裏づけ資料が提出されていないことを指摘しまして、裏づけ資料、説明資料の提出を強く請求いたしております。

質問

3億716万2,800円の裏づけ資料等がないということか。

村長

裏づけ資料については、この3億600万余りの証明する資料、それが無いということです。ないというよりは、黒塗りをした、それが

もう資料なのかどうかからんような黒塗り資料が出されております。

質問

2月4日、第2回調停委員会が行われており、その詳細内容についても、また同じであったのか。

村長

第2回の調停委員会で、月島機械は営業秘密であるということを示す理由に資料の提出に難色を示していましたが、黒塗り資料の開示と支払いを示す資料の提出を行うということ、提出をいたしました。本村は、その資料に基づきチェックを行い、多くの疑問点を主張しました。その中で多くの指摘をいたしました。3億670万3,000円についても疑問点を出しまして、こちらの言い分として、この3億670万3,000円については納得できないという中で、ようやく2億1582万1,000円まで認めることとなっております。

質問

平成30年度補正予算9,500万円の債務負担行為が行われたが、な

ぜこの9,500万が支払い執行できなかつたのか。

村長

3月の第3回の調停委員会がありますけれども、3月中に合意はできないだろうという判断のもとで、次年度へ繰り越したというところであります。

質問

3月4日、第3回調停委員会が行われており、この第3回目が一番非常に重大です。今回第3回目にごまで進んでいるのか。

村長

去った3月4日の第3回調停委員会が開かれました、本村としましては、第2回調停で指摘した多くのことをさらに指摘して、提出資料をもっと求めております。資料の提出はありますけれども、本村が求めている内容と回答がしっかりと得られておりません。



豊見山 正 議員

問

水納島航路船の活用は

答

運営は水納島住民に
委託する

■水納島航路線を活用した
観光振興は

水納島への航路船は、私が記憶する限りでは初めての建造であり、水納航路は初めての開設となる。

現在、水納島へ渡るには高額のチャーター船料がかかる。水納航路が開設されれば運賃の軽減に伴い、観光客の増加が期待できる。水納島観光と航路船の運行について、具体的な施策を村長に伺う。

村長

水納航路の船は、観光だけのため
の船ではない。この船は、事業概要、
課題、背景、必要性、期待される事
業効果など、水納島の皆さんが所有
する現有船の老朽化に伴って住民の
安全、安心した生活の確保と命を守
る産業の振興を守り、産業の振興を

図ることが大きな目的である。もち
ろん、附随して観光客の利用にも利
便性が期待される。

そういうことからして、水納航路
の運営は水納島の住民の皆さんに委
託するのが望ましいと考えておりま
して、生活航路としての全般に使う
船だということをご理解いただきたい。

意見

村長の話しでは、水納の住民に預
けるといふ方向であります。水納
島の皆さんは、25年前に自費で2、
500万円をかけて今のしらはまを
建造したとの話である。その後、
相当数の牛の頭数を持ちながら、畜
産業に力を入れ多良間でなく宮古島
へ搬送して、宮古島の競りにかけて
いる。今の高値安定の中、村長がよ
くおっしゃる自助、共助、公助とい

う順序からいけば、自助努力をすれ
ば十分に自分たちの船を買えるので
はないか。この水納島航路船につい
ては、もっとみんなで議論をして、
多良間にとってこの船が、どう活用
できるのか検討していただきたい。

■観光協会の法人化は

本村の観光産業の振興を考えると
き、観光協会は中心的な役割を担う
べき存在であると思うが村長のお考
えは。

村長

観光活性化策としての村観光協会
の法人化については、法人化するこ
とで組織の強化が図られ、独自の事
業実施の可能性も広がる。考える。
ぜひ法人化に向けた取り組みを強化
していきたい。そのために、去年9
月に地域協力隊も配置されて、それ
に向けた取り組みをしている。新年
度では、法人化に向けた取り組みと
して、沖繩振興特定事業推進費の活
用も計画をしている。

■生活道路の改修について

村道普天間港線の南側に位置する道
路で、島外で亡くなられた方の遺体や
遺骨を搬送するときなど、慣習により
普天間御嶽前を避けてこの道を通る。

この道は砂利道で、雨水で洗掘さ
れたり、大きな水たまりができたり
で通りにくい状況である。村民に
とって重要な生活道路であり、簡易
的にでも舗装できないか。

土木建設課長

普天間線、その北側、東側、西側
に大きい道路があるから、そういう
ふうな不十分な管理になってしまっ
たと思うんですけど、まずは、
スムーズに通れるような修繕をして、
この区間がどの事業でできるかを検
討して整備をしたいと思えます。





渡口 直和 議員

■文化財の保護について

去った2月7日に、島外で生活されている同郷の先輩や後輩の皆さんも多数参加し、恒例の亥年合同生年祝いが盛大に行われた。その後に、御嶽や井戸などの文化遺産めぐりで、説明版があまりにも小さくて見づらい、教育委員会に進言して改善することは出来ないかとの意見があった。後日、各御嶽や井戸を確認したところ、説明版が劣化により、文字盤がはがれ変色し、黒ずんでいた。特に、アマガーとシユガーは文字盤のほとんどが剥がれ落ち、説明文が読めない状態である。

そこでこのような状況に対し、今後説明版の対応策が必要だと考えるが、委員会としての今後の取り組み、予定は。

多良間島には歴史ある文化財が数多く存在し、毎年11月頃に開催されるたらま島一周マラソンでは、「楽しく走ろう 歴史の見える島 多良間島」をキャッチフレーズに盛大に開催されている。文化財は村の貴重な財産であり、大きな誇りでもある。先人たちが守り通してきたこの文化遺産をしっかりと管理し、未来永劫継承していくのがお互いに課された使命であり、義務であると思う。こういう観点からも早急な説明版の改修、設置が求められるのでは。

問
史跡の説明版
取り替え

答
年次的に修繕

教育課長

今年度は3カ所の新設の説明版の設置をしていく。アマガー、シユガーの修繕も年次的に予算獲得をして、進めていく予定。

意見

多良間島には歴史ある文化財が数多く存在し、毎年11月頃に開催されるたらま島一周マラソンでは、「楽しく走ろう 歴史の見える島 多良間島」をキャッチフレーズに盛大に開催されている。文化財は村の貴重な財産であり、大きな誇りでもある。先人たちが守り通してきたこの文化遺産をしっかりと管理し、未来永劫継承していくのがお互いに課された使命であり、義務であると思う。こういう観点からも早急な説明版の改修、設置が求められるのでは。





本村 健次 議員

問

抱護林の維持管理は

答

長期的なビジョンで
計画を

■抱護林について

抱護林の維持管理、特に、プールの北側と中学校と保育所の間、そこはフクギが少なくなり、ガジュマルがものすごく生い茂っている。雑草も多く、つる草が、大事な植えられた木に覆いかぶさっている状況も多くある。約40年前、中学生のころはよく抱護林の下で遊んでいた。雑草も少なく、すばらしい抱護林だったが、今はジャングルのようになって、本当にもったいない感じがすごくある。中学校も環境整備のとき、多くの時間を割いて抱護の木を伐採とか（出ている部分）、特にガジュマル。毎回やっているが、一向によくなる気配はなく、逆にどんどんこのガジュマルが勢力を強めて、大事な村木でもあるフクギ等がどんどんなくなっ

てきている。そういう状況の中、文化財保護の意味でも、このガジュマルを除去し、フクギをきれいに植えて、観光客もまた見たいなと思うぐ

らいの抱護林を復活してはどうかなと感じている。代々守られてきた、引き継ぎ守られてきたこの抱護林を衰退させることなく、島内外に自信を持ってアピールできるように形にできないか。やるとしたらいつごろできるのか。

教育長

議員のおっしゃるとおり、中学校と保育所の間、20年、30年ほど前はあれほどガジュマルの木が勢力を伸ばして広がっている状況ではなかった。プールの北側もそう。ガジュマルが大きくなくなるといふことについて、フクギの低木とか、そういうのがな

かなか大きくならないで、あとは立ち枯れしていくという状況なども見られているので、抱護林の保護育成については、もっともっと村民の皆様にもPRして、県内でも多良間にしかないという抱護林みたいなので、そこら辺はガジュマルの対策を立てながら、随時フクギの木を植えて、あるべき抱護林みたいにしていくけたらなと思っている。

木に関することですので、いつごろそれをやるかということに対しては、長期的なビジョンで計画をしてきたいと思う。今より悪くならないような方策を計画していきたい。

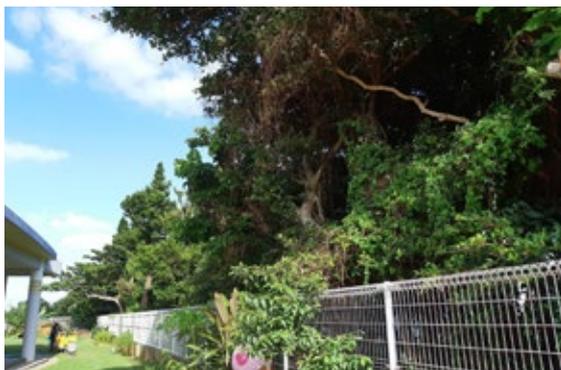
意見

中学校では、毎年のように整備作業をしているが、やるごとに取るべきものが増えていく。また、生徒数も減り、その分保護者も減る。そういう状況の中で、その環境整備作業というのがどんどん重荷になってきているので、思い切り次の作業ができればいいような取り組みを行政でしていただいて、教育の場所の環境を整えて、子供たちが思い切り学び、遊べるような状態を作っていただきたいと思う。

他には、今日の管内視察でもあった、塩川団地から北、南の方に向かいながら、大きくガジュマルが茂っていたが、そこも最近はトラクターとかも通りにくくなっているから、やっぱり邪魔するのは切りながら、木の植え替えも積極的に、今後のためにも取り組んでいただきたいと思う。



プールの北側



中学校と保育所の間



安里 三喜男 議員

■高齢者福祉対策

12月定例議会の当局からの答弁に沿って質問していきますが、高齢者福祉対策として、高齢者の生活機能の維持、改善を目標に、介護保険事業による各種サービスが提供されているとありました。これは、どのようなサービスで、どれだけの高齢者が参加、利用されているか伺う。

住民福祉課長

介護保険給付として、通所介護、短期入所生活支援、訪問介護、これは「萌木の里」でのサービスとして受けている。地域支援事業として、訪問型サービス、通所型サービス、緩和型通所サービス、生きがいデイサービス。月1回実施している、ふしゃぬふ教室（平成29年延べ109

問

持続可能な
介護施設の運営とは

答

島外からの誘致を
考えられる

名が利用)。保健師による個別訪問リハビリ支援、健康相談。あと診療所、事業所、地域包括支援センターが連携し、在宅介護者への訪問支援。そして、地域サロン事業で月1回の活動を行っている。

質問

いろいろな運動教室などの取り組みをされていく中でも、年齢を重ねていくと、最終的には施設の利用が不可避となってくる。そこで、多良間村高齢者生活センターの規模等について、今後も高齢者は増加する傾向にあり、今の施設（萌木の里）の規模は、何名まで入所または利用が可能か。入所者の人数に対する有資格者の割合はどうなっていくのか。そして、この施設の増設は可能であるか伺う。

住民福祉課長

介護予防通所介護事業では35名まで、短期入所生活支援事業では9名までは利用可能である。今現在25名の職員で運営しているが、この施設の増設は可能であるかとの質問ですが、まず短期入所、今現在9床（ベッド数）これは平成26年度の検討委員会の報告を元に確認したところ14床まで受け入れは可能ではあるが、それに伴い、また介護支援員が一人増えるとか、そういった課題もある。介護施設に関しては、島外からの誘致も考えられるが、ただ利用者の数や状況にも左右され、経営上採算や利益等を伴わない場合、この島外からの事業者は撤退せざるを得ないということも考えられる。そうなた時にこれまで施設を利用していた方達をどのように対応していくのか、村がその施設に助成金を出して運営を継続してもらうかといった課題も出てくるかと思われる。少子高齢化が進む中、どのような施設が良いのか再度検討していく必要がある。

■村営住宅台風時の防災対策は

近年の台風は地球温暖化の影響もあって、巨大台風に発達することが多く、沖縄地方は毎年7・4個接近し、沖縄付近で速度が遅く、長時間影響を受けることがわかってきた。雨戸があれば70メートルの暴風でも耐えられるが、なければ強風注意報でも、飛散物が当たればガラスなどが破損して非常に危険であるとのこと（気象講演会での話）。今現在、雨戸が設置されている世帯数は。今後の設置予定は。

土木建設課長

90世帯のうち32世帯に設置されている。特に南原団地は築38年が経過しており、木製の雨戸はあるが壊れたりしている箇所もあり、また、玄関の鉄製ドアの開閉も不具合があるとの苦情等も聞かされている。建て替えが計画されているが、それまでに危険防止の対策等を検討し技術屋さんに相談しながら対応していく。



福嶺 常夫 議員

問

女性消防団の配置は

答

積極的に取り組む

の効率化にもなるドローンでの農薬散布を検討しては。

産業経済課長

既に多良間でも平成30年4月に無人ヘリコプターによるサトウキビへの農薬散布の試運転を行っている。葉たばこ、カボチャ、草地等への飛散防止対策も必要。いろんな方法で取り組む。

村長

31年度4月1日から、県へ一人派遣する。

政策参与の配置

村の基本計画に基づく施策事業等の重要な課題、解決や事業推進や執行体制の充実に政策参与の配置を。

村長

こういった人材が多良間村の政策参与としてふさわしいか考えながら検討。

子ども議会の継続と反映

1月19日に開催された子ども議会を、次年度からも継続して開催するか。村の活性化や課題解決の質問、提言について、今後の村づくりなどのように反映するのか。

村長

村としては大歓迎。大変いい発想の質問が多くあった。各課長ともできるもの、できないもの、それをはっきりと申し上げて、短期間でできるのか、長期的なのかと判断しながら進めたい。

防災と消防

自主防災組織について災害から身を守る備え、防災意識の高揚、避難訓練実施など、組織体制を立ち上げてはどうか。現在の消防団員は何名か。また、消防団の充実には、女性消防団を入団配置してはどうか。災害に強い村づくりに女性消防団の活躍が必要と考える。

村長

東日本大震災から、各地域で地域防災組織が設立され、全国平均は約70%。沖縄県内では全国最低に当たる13%、八重山圏域は、明和の大津波で被害を受けたことなどあり約68%、宮古圏域全体で0.4%。もちろん多良間はゼロ。現在の消防団員は24名。今後、消防団組織の強化

も含めながら、防災組織をどう育成していくかが大きな課題。

総務財政課長

消防庁から女性消防団員入団に向けた積極的な取り組みを奨励している。今後、女性団員配置への取り組みを。

みずあげ費用の助成を

キビ作農家の負担軽減に、みずあげ費用を助成はできないか。

産業経済課長

サトウキビ手刈りは、前処理施設の補助金との関係もある。みずあげ費用の助成は、今後検討する。

ドローン利用の農薬散布

人手不足また高齢化の対策として、サトウキビ病害虫の防除、作業

キビ競作会への参加を

キビの反収、品質を競うキビ競作会へ参加できないか。農家の生産意欲の向上、品質の評価ができる。

産業経済課長

競作会への参加は、市町村、工場、生産組合からの推選で行っている。多良間でも平成28年、29年期作で3名を審査対象としていたが、反収不足。反収の選考基準が夏の反収が10アール当たり13トン以上、春植で8トン以上、株出で10トン以上となる。

職員の実務研修

県への職員の実務研修派遣を実施してはどうか。職員の幅広い知識、施策課題等の研修ができる。



1 地域振興拠点施設(食事・お土産品)進捗状況

建設工事の遅れについて確認を行いました。建設工事の終了は5月17日(金)。その後、外溝工事、太陽光発電工事、指定管理者の指定を行い、オープンは2020年度の予定となっています。村民の期待が大きい施設なので、今後も注目していきます。



2 文化財説明版確認(シュガーガー)

渡口直和議員の一般質問で取り上げる問題を事前に確認。(詳しくは8Pをご覧ください)

3 村道普天間線南側の道路(普天間御嶽)

豊見山正議員の一般質問で取り上げる道路を事前に確認。

島外で亡くなられた方の遺体や遺骨を搬送するときなど、慣習により普天間御嶽前を避けてこの道を通る。この道は砂利道で、雨水で洗掘されたり、大きな水たまりができたりで通りにくい状況である。村民にとって重要な生活道路であり、簡易的にでも舗装できないか。(一般質問内容)



その後、確認すると早速、簡易的に改修されていました!

4 迎原地区土地改良区の水たまり現状確認

5 カッジョウ地区土地改良区農道の水たまり現状確認

迎原地区と同様にカッジョウ地区も水たまりが出来ると農家より報告を受け、現場の確認を行いました。施工管理が出来ていない状態なので、担当課長に業者指導の徹底を行うようお伝えしました。



編集後記

2019年度3月定例会予算案も修正案2件あり、無事可決されました。向こう一年間の予算執行が楽しみです。

我々議員も6月8日で任期3年目を迎えるが、今、議会は機能しているのか、考えさせられる今日この頃です。なぜなら勉強不足で通る議会議員であってはならないからであります。議会議員が勉強不足では行政監視機関の不能であり、役割が果たせず行政側から軽視されているからです。今一度原点に戻り反省し、村民の声に耳を傾け、今多良間村において一番何が必要か、又、村民は何を望んでいるのか行政に強く訴え、村発展一路全力で真剣に取り組んで行きます。今後ともご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。

議会広報委員長
富原 安則

